

平成 29 年度 第 3 回八幡地域協議会 要録

日 時：平成 29 年 11 月 20 日（月） 19：30～21：30

場 所：郡上市役所 4 階大会議室

出席者：【八幡地域協議会委員】

福手保成、先山祥一、石山加代子、兼山勝治、水野良一、尾田孝夫、山下優子、坪井繁智
西村叡、本田教治、青木巖、石神啓次、池戸郁夫、羽田野哲夫、日置次郎

【オブザーバー】上田謙市

【事務局】丸山八幡振興統括、河合企画課長、大野企画課地域振興長、

和田（隆）交通対策担当係長、和田（幸）地域振興係長、酒井

欠席者：【八幡地域協議会委員】加藤徳光、河合研、和田肇、武藤政則、武藤理恵

1. 公共交通検討会

事務局より説明

委 員 スクールバスとの混乗について、児童生徒のためにスクールバスが来て 2～3 人が乗っている。小那比はジャンボタクシーを週 2 回運行しているが、スクールバスならば毎日に運行しているので美並まで運んでもらえれば便利だと思う。また、タクシー事業者 2 社が廃業という話を聞いているが、今後はどうなるのか。

事務局 タクシーについては存続を前提に、市として施策を検討している。

委 員 スクールバスとの混乗というのは、非常に便利だと考える。美並まで出ることができれば便利であるが、美並八幡線は便数があるのか。

事務局 美並八幡線はあまり便数がないので、美並からですと長良川鉄道の利用していただき、郡上八幡駅まで来てもらえれば、駅からは市街地へまめバスでの移動が可能である。

委 員 昨日も交通の話を区長とした。区長は懇談会に出ているのか。

事務局 八幡地域公共交通懇談会には出席いただいた。11 月 10 日の市全体の懇談会は所要があるということで欠席された。

委 員 自分で運転するものはあまり関係ないが、高齢者は困ってみえると思うので配慮をお願いしたい。

事務局 スクールバスとの混乗については、市が運行する自主運行バスに子どもさんに乗ってもらうということを考えている。スクールバスは毎日運行していますが、夏休みは運行しないことになる。混乗を進めて一定の経費が浮けば、その経費を自主運行バスの利便性向上のために向けていくことも検討できる。

委 員 組合の運行によるデマンド交通を検討されるということで、私からいろいろな事例があるので調べてくださいとお願いしたが、調べていただけましたか。

事務局 西村さんのご意見として地域住民の意見をよく聞くようにということをお聞きし対応しているが、事例についてのご回答は準備しておりませんでした。

委 員 再度調べておいてください。今スクールバスとの混乗等の話も出たが、このような話の場にいろいろな公共交通の運行体系を例示して教えてもらいたい。また、国内のいろいろな運行形態を例示しながら、市民のみなさんから出される要望について情報を出しながら回答してほしい。すべて出せばよいのではないかな。

事務局 すべての路線について、運行形態を説明するのではなく、課題のある路線についてこちらで

考えたものを提示していきたい。

委 員 このような場でいろいろな方法があると情報提供してもらうことはできないのか。

事務局 情報を提供することはできる。

委 員 運行形態を例示して、この地区ではこれができるとできないとかを議論することが重要で、そういう情報を開示することが必要でないか。

事務局 ※9月19日の八幡地域公共交通検討会で提出して資料のコピーし、再度会議に提供したうえでそれぞれの交通形態について説明。

委 員 この資料が前回の会議で配られていたことを失念していた。公共交通での特区というものはあるのか。

事務局 特区としては、飛騨市で特区を申請して、1日3便しかない間の時間にNPO法人が運行する路線を走らせている。

委 員 公共交通空白地有償運送が難しいということであるならば、特区申請ができるかを確認したかった。

事務局 地域の方の協力や利用がないとできないものである。

委 員 その他に福祉有償運送も明宝でやっているのも事例としてはあることから、空白地有償運送も研究すればできるのではないか。

事務局 決してできないと言っているのではなくて、仕組みを変える手続きや地元の意気込みも必要となる。

委 員 仕組みは色々あるので、地域の人たちは困っているのなら、地域でも色々活動を活発にやっているのも、そういう機運も高まるのではないか。市が大変なのであれば地域でやっていく時代なのではないか。

委 員 今回の提案では具体的な変更というものがない。説明の中ではまめバスの路線変更等があったが、具体的な路線変更の話の中で、市街地では路線を変更してもよいとか、周辺ではもっと利便性を高めてほしいというような要望があれば、この場でも意見が出て協議できるが。西乙原地区も検討するという話はあったが、見通しみたいな話がないと議論できないし、要望みたいな形で良いのか。

委 員 路線の変更という話については、直接地域に話をぶつけてもらって、地域で真剣に考えてもらった方がよいのではないか。その際に色々な情報を流してもらったほうが良い。

委 員 西乙原・亀尾島があげてあるが、那比も同じような状況である。スクールバスとしての業務が終わった後は運転手がバスを掃除して空いた時間となる。西乙原で言えば、葬儀の際に送迎バスのルートは決まっている。例えば高齢者の為に八幡西中発の路線を1本走らせてもらうとよい。八幡西中発で那比に行って、亀尾島、荒倉へ行って戻ってきてトンネルを通過して稲成橋を通過して八幡に入る。そして午後にもう一本も設けるといったシュミレーションをしてもらって、案として見せてもらうと判断ができる。また、行政が困っていること、地域が困っていることをマッチングする必要がある。我々地域の代表は、地域に具体的に示された案をもってかえって報告する必要がある。

事務局 現在いろいろなシュミレーションをして検討しているところである。地域のニーズ、通学や通勤などの目的、目的に合う時間などを加味しながら検討している。

委 員 方針を案として受け止めて、考えればよいのか。

事務局 方針としてはこれで向かっていくということは決めている。皆さんには具体的な施策といったところでご提案をいただきたい。

委員 観光での郡上八幡インターからの実証実験については、データは出ているのか。

事務局 8月に300人ほどの利用があったが、時期が過ぎると利用は減ってきている。現在の実証実験では朝夕の時間以外の、観光客など市外からの利用者に対応する時間で運行している。今後は高速バスを利用する市民の生活交通として朝1番のバスから運行ができるか検討を行っていきたい。

委員 高齢者の問題にしても川合地区でも1,200人ほどいるわけであるが、要支援者は120人ほどいて、1人暮らしの高齢者が80人ほどいる。川合地区ではスクールバスと一緒にやっているわけであるが、時間的にずれがあり、日中はほとんどバスが動いていない。またバス停が遠くなかなか外出ができないということもある。有償運送については地域へ話を下ろしていくことができるのではないか。市が丸ごと抱えてやるということは大変であるし、予算もかかることから、地域へ下ろして地域の活動を支援する方がよいのではないか。地域の中の移動を地域が担って行う運行もできるのではないか。

委員 案を示していただく時に、数字で示してもらおうとよいと思う。例えば観光客は、観光バスでは何人、自動車が何人、長鉄が何人とかどのような方法で来ているか。その数字から公共交通が必要であるということがわかると意見が出しやすい。

事務局 データはたくさんありますが、今回は分かりやすく説明するために今回の資料を作成しています。

委員 地域の実態を把握するために、地域でのアンケートが必要でないか。

委員 昔は岐阜バスとかがあり、既得権益があった。現在はほとんどの路線は郡上市が資金を出しているので、様々な路線を郡上市の采配できるのではない。組み合わせの問題だけでないか。幹線がどうかではなく、市民が求めている路線を走らせればよいのではないか。

事務局 市としては、幹線は必要ではあると考えている。これがないと地域と地域がつながらない、また、無くなってしまうと再び走らせることはできない。幹線を保ちながらも支線をどうつないでいくのか、また、利用しやすいものにしていくのかを検討する必要があるので、皆さんの意見をいただきたい。この計画は策定してしまえば終わりというものではない。今後皆さんと引き続き協議していくものと考えている。

委員 先日視察に行って思ったのは、地域の人が真剣に考えて取り組んでいる。地域で話し合う場を作ってもらう必要がある。

委員 9つ基本的な考え方について皆さんに了解してもらうことが先決である。①で言えば維持と見直しということであれば、それぞれ具体的な事案が出てくれば、関係の地区で協議を行っていくことを掲げている。

事務局 本来であれば、見直しの部分があればお示ししていかなければならないが、今後市の公共交通会議でも提案しながら進めていきたいと考えている。

委員 基本的な考え方に方向性についてはご了解いただいて、細部については提案されたことを検討するという方向でよろしいでしょうか。

委員 高齢者については、明宝で福祉有償運送をやっているということで、八幡でもこれができるのかということが検討する必要があるのではないか。また、タクシーの活用ということがあげられているが、今後の見通しはどうか。

事務局 市としてはタクシーが無くならないようにという強い思いの中で取り組んでいる。タクシーの利用が増えるような施策を、公共交通の中でやっていくことも一つの手段となる。乗務員の確保対策なども考えられる。公共交通空白地の解消や高齢者対策、観光での活用を検討し、タ

クシーが存続するように考えていきたい。福祉有償運送については、明宝の NPO 法人がやっている。市でも運行を行っている。

委員 加藤の花屋が介護タクシーを行っていると聞いている。

委員 亀尾島は空白地であるので、地域の皆さんにはそれとなくどういう風に思ってみえるのか聞いてみました。定期的にバスがくると、必ず利用しなければならないとか、タクシーに来てもらおうと気の毒だとかという意見がある。公共交通に慣れていないので、皆さん遠慮がちである。やはり意見としては困ったという方が多い。何とか空白地の解消をお願いしたい。

委員 やはり優先課題は空白地の解消である。観光客は元気な方なのでそれほど心配はないが、やはり空白地は住んでいる方のことを思うと、1 日も早く解消をしていかなければならないと思う。

委員 9つの取り組みがあるが、それぞれの取り組みのゴールの時期が違うと思うので、スケジュール感をしっかりと持ってやってもらいたい。今回、本当はもっと具体案が出てくると期待をしていたと思うが、今後具体的な事業については、しっかりと計画的にやってもらいたい。

委員 免許返納の促進については、地域での生活ではなかなか免許を手放すことができないと思う。山や農業をやるのには免許が必要であるので、促進することは難しいと思う。

委員 空白地の解消については書面の上だけでなく、一刻も早く実行してほしい。

委員 今後、郡上市としては費用の面が心配だと思う。自分は小野に住んでいるが、高校生は親御さんが送ってきてバスには乗らない。長良川鉄道も乗って残そうというのが実際には利用されない。色々難しいとは思いますが、様々な意見を取り込んでやってもらいたい。

委員 交通網を市全体で考えた場合に目指す姿を作り事は良いと思う。目指す姿は地域によってそれぞれ課題が違うので、それぞれの地域が平等性をもって考えなければならない。

また、インターからタクシー等を使って運ぶのではなく、高速バスが市街地に入るように、できるできないではなく、いろいろな方向性を考えた上でやってもらいたい。

アドバイザー

現在、策定している交通網形成計画について、公共交通会議での委員の方の意見で、自分たちばかりで案を作るのは大変なので、7 地域で大勢の人の意見を聞いてもらいたいということで、このような機会を開いてやっていると思う。今日示された基本的な方針案については、7 地域懇談会を開きながらそれぞれの課題やニーズをうまくまとめていると思う。

事務局が歯切れが悪いというのは、財政との関係あるということで慎重な発言となっていると思う。基本的な方針が実施計画に移っていくなかで、9 月議会の一般質問の回答で、市民の皆さんのニーズをすべて交通網形成計画に盛り込みたいが、財源が関わってくるのでどこまでできるかわからないが、精いっぱいのはしりたいと答えている。今皆さんが思っていること計画ができるまで忘れずにいていただき、どのように計画に反映されるかを関心を持っていただきたい。

懇談会でもアドバイザーの先生が、この計画は市民の皆さん思いにより年々進化していくものであると言われていたので、議論したことを忘れずに見ていていただきたい。

委員 基本的な考え方についてはこれでよろしいでしょうか。また、関係地区での協議になることもあると思いますが、これで了承していただけるでしょうか。

異議なし

委員 基本的な考え方が了承されました。

2. 報告事項

■視察研修について

事務局 長野県飯田市の住民自治の運営、龍江地区の住民活動を確認。

■地域づくり学習会・活動報告会について

事務局 2月中に地域づくり学習会・活動報告会を開催することを確認。

閉 会